受入団体名：衣笠キャンパス地域連携課

プロジェクト/団体プログラム名：
嵐電×地域×立命館フジバカマプロジェクト

募集人数

6名

＜活動期間： 2024年10月1日 ～ 2024年12月7日　活動日数： 13日程度＞

＜活動日or 活動パターン＞

■週1日程度　※土日イベント2日程度

＜活動の流れ＞

日時（予定）	活動内容
10/1（火）	絶滅寸前種フジバカマとその保全活動に取り組むプロジェクト（「嵐電沿線フジバカマプロジェクト」）について説明。
10/8（火）	衣笠キャンパス及び嵐電の駅でのフジバカマ観察とアサギマダラ飛来確認。嵐電沿線の緑化に取り組む住民からの説明。
10/15（火）	嵐電嵐山駅での足湯体験と嵐電社員からの説明
10/22（火）	2023年度活動の振り返りと2024年度活動計画の検討
10/29（火）	活動計画に関する意見交換①
11/5（火）	活動計画にもとづく活動（草木染め準備等）
11/12（火）	活動計画にもとづく活動（草木染め準備等）
11/16（土）	草木染めイベント
11/26（火）	活動計画にもとづく活動①（匂い袋づくり準備等）
11/26（火）	活動計画にもとづく活動②（匂い袋づくり準備等）
12/3（火）	活動計画にもとづく活動③（匂い袋づくり準備等）
12/7（土）	フジバカマ匂い袋づくりイベント
12/10（火）	活動ふりかえり

＜主な活動場所＞

衣笠キャンパス東側広場

※集合場所

至徳館1階衣笠キャンパス地域連携課

＜キャンパスからの交通手段＞

徒歩

＜活動に必要な費用＞

無料

＜参加の姿勢＞

地域連携活動の一環として活動していますので、地域から参加される方々とも積極的に交流してください。

＜コミュニケーションの手段＞

■電子メール

■LINE　　■電話

＜活動のテーマと主な内容＞

嵐電×地域×立命館で絶滅寸前種フジバカマを育て、守り、活用する

衣笠キャンパスでは、2020年7月に公益財団法人京都市都市緑化協会からフジバカマの原種を受け入れて以降、学生・教職員、地域住民、嵐電と共に育て、守り、増やす保全活動に取り組んできました。2021年から3年連続して、中国・台湾と日本との間を2,000km移動する美しい渡り蝶「アサギマダラ」がフジバカマの蜜を吸いに衣笠キャンパスにも飛来しました。京都府の絶滅寸前種のフジバカマの栽培「挿し芽で増やす→植える→観察する→収穫する→上手に使う→芽が出る→挿し芽で増やす・・・」というサイクルを地域連携による協働ネットワークを通じて行うことで、SDGsの目標15「生物多様性喪失の阻止」、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」の達成を目指します。

＜活動する現場で学生が求められる背景（理由）＞

近年、フジバカマの保全活動は、京都市内でも徐々に拡がってきています。2021年度には学生・教職員、地域住民、嵐電で「嵐電沿線フジバカマプロジェクト」を立ち上げ、三位一体で保全活動を開始し、その構成メンバーとして学生たちが活動に参加してくれています。学生メンバーは先に述べたサイクルにおいて、水やりから匂い袋づくりなどの企画運営でも重要な役割を担ってくれています。この点が、京都市内の他の保全活動との大きな違いとなっています。学生メンバーは、「保全活動の輪を拡げていく」その大きな課題に、保全活動のPRキャラクター「フジバカマン」を活用したとグッズを制作するなど、柔軟な発想と行動力で大きな役割を果たしてくれています。

＜学生が期待できる学び＞

本プログラムでは「フジバカマを育てる」、「フジバカマを守る」「フジバカマを余すことなく活用する」、その一連の「フジバカマを介した協働作業」が様々なネットワークを構築している（構築していく）ことを実感することができます。また、本プログラムで活動することは、SDGsの目標15の達成に繋がる取組みであり、活動（実践）を通じてSDGsに参加していることになります。さらに、衣笠キャンパスが位置する京都市北西部地域に暮らし、働く方々との協働作業のなかで地域愛にも触れることができます。そして、自分たちがこのような地域で学ぶことの意義を再確認することができます。

＜活動紹介＞

嵐電嵐山駅での足湯(フジバカマ湯)体験の様子①

嵐電嵐山駅での足湯(フジバカマ湯)体験の様子②

フジバカマ草木染めの様子in嵐電御室仁和寺駅①

フジバカマ草木染めの様子in嵐電御室仁和寺駅②

小学生対象で実施した匂い袋づくりの様子①

小学生対象で実施した匂い袋づくりの様子②

小学生の匂い袋づくりをサポートする大学生たち

PRキャラクター フジバカマンイラスト付き匂い袋

衣笠キャンパスに飛来した渡り蝶アサギマダラ